

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0870600301		
法人名	株式会社 稲善		
事業所名	いねの里やすらぎの家		
所在地 (電話番号)	茨城県筑西市下中山381-1		(電話) 0296-21-1744

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年2月6日	評価確定日	平成20年6月4日

【情報提供票より】(平成 20 年 1 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 31日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 19人, 非常勤 0人, 常勤換算 19人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/ 改築
建物構造	鉄筋 造り	
	3 階建ての	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円
敷金	<input checked="" type="checkbox"/> (50,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/ <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	27 名	男性 14 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	11 名
要介護3	5 名	要介護4	6 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 77.9 歳	最低 59 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大圃クリニック・渡辺歯科・しもだて中央クリニック・協和中央HP・さとうクリニック
---------	------------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

いねの里やすらぎの家は、鉄筋3階建ての既存の建物を全面改修し、1階はデイサービス、3階は3ユニットからなるグループホームを設置している。敷地内には同系列の保育園があり、子どもたちが定期的にホームを訪問するなどの世代間交流を取り入れている。地域との交流にも前向きで、敷地内に持つゲートボール場を地域住民に開放し、グループホーム利用者はそのゲートボールに参加したり、観戦したりしている。また歩行浴の設備を最近造り、これも近隣の高齢者に開放している。利用者は明るく穏やかに過ごしており、利用者間の交流も多くみうけられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、介護計画策定のための会議や見直しの方法を特に改善を要するとされていたが、その後はユニット会議を導入、また会議録を作成し職員が目を通すように指導している。またこれまで申し送りノートに記入者や目を通した職員がサインをする欄がなかったが、それを設けるなど、随所に改善がみられた。ただ記録のフォーマットにおいてはまだ改善の余地があるので、今後の取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、ケアマネ、職員で話し合いながら取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営促進会議はこれまで1度開催されたが、その後は開催されていない。ホームのケアの質をあげていくためには外部者の意見等も積極的に取り入れて行かなくてはならない。今後は定期的に開催することが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見や苦情、不安は「意見箱を設ける」、家族が訪問した場合に「直接聞く」という手段をとり、解決している。前例として、家族から出た苦情に対して早急に対応し問題を解決している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園や近隣小学校の児童をホームに迎え入れたりしている。また歩行浴、ゲートボール場を地域住民に開放し、地域との交流を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	頭、心、体の健康、および児童等とふれあう地域との交流にも理念は言及されており、事業所独自の理念をつくりあげているといえる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は意識はされているものの、ルーティーンワークに追われることにより、忘れられがちとなっている、と感じた。	○	運営理念が実践に活かされるよう、今後はユニット会議で必ず再確認するなど職員に浸透するような取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のお祭りの際、御神輿のルートに施設の近くを通過してもらうようにする、といった工夫をしながら地域とのつきあいを確立している。またゲートボール場や歩行浴場を地域住民に開放したりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で要改善となった項目に関して、改善されている様子もうかがえたが、記録に関しての改善が不十分と感じた。評価の内容も各職員が必ずしも把握していなかったように感じられた。	○	評価をファイルして常に誰でも見られるようにしておく、改善点を意識した取り組みをしていくことを年間の目標に据える、などといったことへの取り組みを求めたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2007年6月に一度開催されたが、その後は開催されていない。	○	今後は2ヶ月に1度定期的に運営推進会議を開催し、外部の意見を取り入れ、サービスの向上に努めることが望まれる。

茨城県 いねの里やすらぎの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議も含め、市町村との連携が十分ではない。	○	たとえば建物の使用されていない2階のスペースを利用し介護教室の事業を請け負う、といったことを積極的に行い、市町村との関係を密にしていきたいことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	いねの里便りを2ヶ月に1回家族に対して発行している。その中に出納状況等もあわせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、また家族から随時口頭ではあるが苦情や意見を受け付けている。そのように意見を聴く姿勢が実際に家族の意見を引き出し、サービスが向上された。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に対応する職員は、できるだけ顔見知りの慣れた職員がすることがよい、という考えが浸透している。したがって、異動等による影響を日頃から考えており、ユニットが違う利用者と職員が関わるようにも配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価では、申し送りや会議を研修の場と位置づけている、という考えがあるようである。	○	今後は研修は研修として位置づけをするようにとらえ、また外部の研修を受講することや、他のホームを見学するような機会を増やしていくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在同業者との交流ははかれていない。	○	同業者との交流を深め、ノウハウの交換や法改正等の情報交換、自己点検にもつなげるよう努力され、現状のサービスの改善や向上に望まれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当日になるべく家族に長い時間にてもらう、というような配慮はしている。	○	たとえば、入居前に何度か体験入居をしてもらう、あるいは担当となる職員が事前に何度か家を訪問し、顔なじみになっておく、といった取り組みなどにより、より利用者が安心し、納得した上で入居されるのではないかと思われる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に家事を行ったりと共同で日常生活を送っている。調査当日も利用者と職員と一緒に掃き掃除をしている様子などがうかがえた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に確認していることはもちろん、日常生活の中においても注意して利用者の希望、意向を把握するように努めている。利用者のこれまでの生活歴から、ホーム内での役割を見いだすような取り組みも行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が訪問してきた際に介護計画の相談をするようにしている。また本人の意見も取り入れるように心がけている。ユニット会議の記録にも話し合われた内容が記載されており、日頃から利用者がよりよく過ごすための方法の検討がなされ、それを介護計画に反映しようとする姿勢がうかがえる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各ユニットで、月に1回会議を開催し、必要に応じて介護計画の見直しをしている。		

茨城県 いねの里やすらぎの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人が所有する、保育園、デイサービス、歩行浴、ゲートボール場、といった資源を最大限に活用し、利用者の生活を豊かにしたり、地域住民に利用してもらったりしており、事業所の多機能性を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院は4病院確保できている。また利用者がなじみの病院がある場合は、そちらにかかってもらうように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全ての利用者ではないが、終末期のあり方について家族等と話し合いの場を持ち方針を決めている。また必要が生じた場合にその都度方針を決定するようにはしている。	○	今後は利用者やその家族が、重度化、あるいは終末期はどのような方針であるのかを確認されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーの確保には注意が払われている。具体的には職員が入職する際に利用者のプライバシーを確保していくことを約束することの誓約書を書いている。このような取り組みにより職員にプライバシーに対する認識が高められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の日課は決まっているが、その枠組みの中で利用者はテレビを見たり、お話をしたり、居室で過ごしたりと思いつきに過ごしている。		

茨城県 いねの里やすらぎの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士と話し合い献立を決定している。その中で利用者の好みを取り入れるように心がけている。準備、片付けを一緒に行ったりもしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午前の日と午後の日がある。利用者の希望に添って入浴してもらうこともあるようであるが、基本的には時間が決まっている。	○	職員の体制等を考慮すると入浴を利用者が好きな時間に入ってもらうことは困難かもしれない。「困難ではあるがどのようにしたら達成できるか」という視点を持って今後改善することを目標に取り組んでいってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態や能力を勘案し、またこれまでの生活歴と照合しながらホームでの役割を決め取り組んでいってもらっている。たとえばゴミ出し、食器洗い、掃除、洗濯、洗濯物をたたむ、といった役割が現在有る。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れている日はできるだけ散歩や外出をするようにしている。近所の池の畔まで行き、そこで鯉をみたり、運動したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず、各ユニットを利用者が自由に行き来している様子がうかがえた。また1階のデイスーパーへエレベーターを使用して降りていく利用者もいるが、そのような行動にも制限をかけず職員が見守りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎月行っている。しかし、ここ2～3年ほど消防署と共同で行っていない。また非常食の常備もなされていない。	○	消防署と共同で避難訓練を行い、より確実に災害時に利用者を避難させられるような体制を築いておいてほしい。また災害時のために非常食も常備しておく必要がある。

茨城県 いねの里やすらぎの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事摂取量、水分摂取量を確認し記録している。また食事は各利用者の状態にあわせたものを作り提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が若干殺風景であったり、お湯を使うたびに、「ゴー」という湯沸かし器の音がしていた。	○	自己評価にもあったように季節感が感じられるような共有空間を作るよう期待する。また騒音の配慮にも気をつけるようにされたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活保護を受給している利用者が多いということもあり私物が必ずしも多いわけではないので、居室に使い慣れたものを持ち込めていない利用者もいる。ただ私物がある方は自由に持ち込んでおり部屋を自分なりに居心地のよい空間にし過ごしている。		